

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第1区分
 【発行日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【公開番号】特開2001-126639(P2001-126639A)

【公開日】平成13年5月11日(2001.5.11)

【出願番号】特願2000-258364(P2000-258364)

【国際特許分類】

H 01 J 29/76 (2006.01)

【F I】

H 01 J 29/76 A

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1対の水平偏向コイルと1対の垂直偏向コイルとを含み、垂直偏向コイルはサドル形をなしており、各コイルは陰極線管のスクリーン側に位置する前部の束と電子銃側に位置する後部の束とを含み、前記束は前記陰極線管の主軸Zにほぼ平行な方向に延びる側部導体ハーネスによって互いに接続されており、前記前部の束と後部の束および前記側部ハーネスは導体の存在しない窓の形状を特定しており、

前記前部の束に近い領域では窓は38°以上の半径方向開口角にわたって拡がっている、陰極線管用の電磁偏向装置。

【請求項2】 前部の束に近い領域では、窓は38°乃至50°の半径方向開口角にわたって拡がっている、請求項1記載の電磁偏向装置。

【請求項3】 後部の束に近い領域では、側部ハーネス導体の少なくとも95%が80°以下の開口角m内に存在する、請求項1または2に記載の偏向装置。

【請求項4】 1対の水平偏向コイルと1対の垂直偏向コイルとを含み、垂直偏向コイルはサドル形をなしており、各コイルは陰極線管のスクリーン側に位置する前部の束と電子銃側に位置する後部の束とを含み、前記束は側部導体ハーネスによって互いに接続されており、前記前部の束と後部の束および前記側部ハーネスは導体の存在しない窓の形状を特定しており、

前部の束の近くで且つ前記窓の前方部で、フレーム・ポテンシャルの第7高調波と第9高調波は反対符号であり、また第7高調波の振幅は第9高調波の振幅にほぼ等しいかまたはそれ以下である、陰極線管用の電磁偏向装置。

【請求項5】 前記請求項1乃至4の何れか1つによる偏向装置を含む、陰極線管。